

シリーズ

経営者のための 福祉人材対策



第 6 号

コロナ禍における 採用のポイントと考え方

1. コロナ禍における採用のポイント
2. オンライン説明会のメリット・デメリット
3. withコロナ時代の採用

新型コロナウイルス感染症は、全国各地で感染拡大が進んでおり、社会福祉法人においても「新たな生活様式」への対応が求められています(2020年8月時点)。
人との接触が制限され、施設・事業所における見学や実習など学生等との直接的なコンタクトが困難な状況が広がるなか、コロナ禍における人材の採用、定着のポイントについて、一般社団法人FACE to FUKUSHI 事務局長 岩本恭典氏に解説いただきます。

※本号では、若年層をターゲットとした新卒採用を中心に解説していますが、記載されている視点やポイントは中高年層など幅広いターゲットの採用にも活用できます

1 コロナ禍における採用のポイント

社会福祉法人の採用活動はいま、withコロナ時代の学生等のニーズを考慮し、あらためて見つめ直すことが求められています。

POINT

1

選考にオンライン対応は必須

「会場に多数の学生が集まる説明会の開催・合同企業説明会への参加」といった、beforeコロナで定番だった採用手法は、見直しが必要です。利用者や職員等の健康や安全に配慮する観点から、大勢の人と接触することが前提のイベント参加についてはあらためて考える必要があります。2022新卒採用では、対面での合同企業説明会の開催を見送る大手就職ナビサイトもあるでしょう。母集団形成のための会社説明会では、一人でも多く学生

を集め、自法人を知ってもらうことが大切です。そのためは、いますぐにでも、**オンラインへの転換に向けた検討を進めること**が求められています。



zoomを活用した福祉就職フェアの様子

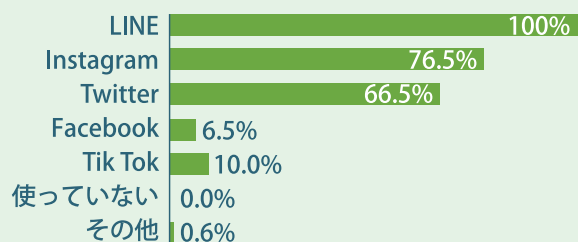
POINT

2

ICTやSNSを積極的に活用する

これまでは法人・施設の説明に際し印刷物を利用することが当たり前でしたが、オンライン化により「印刷物を学生に渡す」ということ自体が困難になってきました。直接会って話をするのが難しいいま、多くの学生は、

学生が日常でよく使っているSNS



※当法人主催の「福祉就職フェアに参加した学生を対象にしたアンケート」の結果

インターネット上の情報をもとに就職活動を進めざるを得ない状態です。いくら魅力的な事業をしていたり、雰囲気の良い職場づくりをしていても、学生に情報が届かなければ、採用に結びつけることは困難です。インターネット上で法人の事業内容や魅力が伝わるよう、ホームページの見直し、Instagram、Twitter等のSNSの活用等を通じて、露出を増やし、多くの学生の目に止まるようにする必要があります。**学生とのコミュニケーションにもSNSを取り入れる等の工夫が必要です。**メールや電話は、年々学生の使用頻度が下がっています。学生が普段利用するコミュニケーションに合わせて、ツールを選択することが効果的です。

POINT

3

「法人全体で」採用に取り組む

施設見学が難しいいまだからこそ、学生に対して、法人の魅力や職員の雰囲気を伝える最大限の工夫をする必要があります。例えば、中継でつないで施設の様子を映したり、職員同士の関わり方を見せたりと、対面式の際にはできなかった、「普段の様子」を見てもらうことも可能になります。

しかし、それには法人内の協力や理解が不可欠です。**「採用は、人事担当だけの仕事ではない」という意識をもち、法人全体をPRするテレビ番組をつくるようなイメージで、各所の体制が組めると、画面に動きのあるプレゼンテーションになり、学生の記憶に残るものができるのではないのでしょうか。**

2 オンライン説明会の メリット・デメリット



FACE to FUKUSHIでは、3月から8月にかけてオンラインでの福祉就職フェアを実施しました。
そのなかで見えてきた、オンライン説明会のメリットとデメリットをまとめます。

法人・学生双方にとってのメリット・デメリット

メリット	デメリット
感染リスクが低い。	対面に比べ、相手の情報量が少なくなるため、 雰囲気をつかみづらい。
交通費、移動時間が削減できる。	
都市部、地方という区分けはなく、 平等に接点を持てる。	

法人にとってのメリット・デメリット

メリット	デメリット
現場中継などの工夫ができ、 法人紹介の自由度が高い。	学生の顔や反応が見づらいため、 学生の状況に合わせた説明がしづらい。
	PCや関連機器の準備、インフラ整備に 初期投資がかかる。 機材を扱える人材も必要。
交通費・移動時間がかからないため、 参加スタッフの調整がしやすい。	画面越しのコミュニケーションになるため、 相手の理解度をつかみづらく、伝わっているか 不安が残る。

学生にとってのメリット・デメリット

メリット	デメリット
話を聞きたい法人を厳選して参加できる。	紙媒体の資料を手にすることが難しく、 記録を残しにくい。
気軽に効率的に参加できる。	個人の環境に左右される要素が多い。 (通信環境や参加場所など)
自分のペースで参加しやすいため、 安心して参加できる。	画面上に参加者全員が映っている場合、 「見られている」という感覚が強く感じるため、 質問しづらいことがある。

オンラインの最大のメリットは、「距離を超えてつながることができる」ことです。

法人にとっても学生にとっても、「都市部だから有利、地方だから不利」という制約が少なくなります。

対面の採用形式では出会うことが難しかった、遠隔地に住む学生ともオンラインであれば
出会える可能性があるのです。

3 with コロナ時代の採用

オンラインと対面の「ハイブリッド型」が主流に？

今後の採用活動は、オンラインと対面を使い分けることが必要です。大勢の学生に届けたい会社説明会はオンラインで行い、選考の段階になってから各法人の考え方にに基づき対面式への移行を判断するという進め方が主流になるのではないのでしょうか。

当法人主催の就職フェアに出展した法人のなかには、内々定まで完全にオンラインで行うという法人もありますが、法人側も学生側も、「一度も施設見学をしないまま、

顔を見ないまま、内定を出して入職する」ということにはまだ抵抗があるようです。

法人・学生の双方に「時間とお金をかけてまで会いたい」という意識が生まれたタイミングで実際に対面する、という流れをつくることで、法人とのマッチング率を高められます。やろうと思えばすべてオンラインでも完結できるなか、**あえて対面で会う機会を作る、それに参加してもらう「価値」をどうつけるか**、が問われます。

オンライン対応しているかどうか、学生にチェックされていると心得ることが必要

積極的にオンライン対応している法人なのかどうか、学生にはすぐにわかってしまいます。いざ説明会に参加してみたら、オンラインでの説明に慣れていない、機材トラブルが目立つ等の手際の悪さは、学生にマイナスな印象を与えてしまうようです。魅力的な事業を展開していた

としても、うまく伝えられないのは大変もったいないことです。

環境の変化に合わせ、柔軟かつ迅速にオンライン対応できているかどうか、という点も学生が法人を選ぶ際の基準になっています。

学生の声

- ・オンライン形式になって、近年のICT利用に関して積極的な法人とそうでない法人の違いがわかる。そういう意味ではオンラインの合同企業説明会は多くの判断材料が増えると感じる。
- ・オンラインにまだ慣れきっていない法人や、zoom等の活用方法に大きな差が見られる場合、法人の印象に違いがかなり出てくるように思う。

※当法人主催の「福祉就職フェアに参加した学生を対象にしたアンケート」の結果

対面式であれば、少しの準備不足があったとしても、ちょっとした小話や話者の愛嬌で場をつないでしのげたようなことも、オンラインだとそうはいきません。参加者にストレスをかけず、法人の魅力を多く伝えられるよう、話者が伝えたいことをしっかりと話せるようリハーサルしたり、必要な機材をそろえるなど、**ソフト・ハードの両面から環境を整えることが必要**です。

このような不安定な時代であるからこそ、福祉の仕事の価値は高まってくると私たちは考えています。そして、いまこそ、社会にその価値を発信していく時だと考えます。福祉の仕事の価値を多くの人に伝えていくためにも、時代の変化をとらえ、福祉業界全体で、魅力を発信していきましょう！



福祉就職フェアのオンライン配信の様子



みんなの「生きる」を
社会福祉法人

2020年8月発行

発行：全国社会福祉法人経営者協議会 福祉人材対策委員会
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル